

Tokyo Medical and Dental University
Faculty of Dentistry

東京医科歯科大学



Tokyo Medical and Dental University

東京医科歯科大学

歯学部総務課教務掛

〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45

TEL.03-5803-5411, 03-5803-7306

歯学部ホームページ

<http://www.tmd.ac.jp/dent/dental-J.html>

Dentistry

歯学部
大学院医歯学総合研究科(歯学系)案内





Introduction

歯学の最高学府



歯学部長
江藤 一洋

我が国最初の国立の歯学教育機関

東京医科歯科大学歯学部は昭和3年我が国最初の国立の歯学教育機関である東京高等歯科医学校として誕生しました。初代校長であった島峰徹先生は、それまで専門技術の修得に偏りがちであった歯学教育を、基礎医学を基本とする学問体系に基づいた知識と技術を教授する教育体系に改めました。以来、この基本理念は本学部の誇るべき歯学教育の系譜として今日にいたるまで連綿として受け継がれています。この間、本学は本邦における自他ともに認める歯学の最高学府としての役割を果たしてきました。

1999年、本学は全国10の大学院重点化大学の一つとして改革が行われ、2000年には11の大講座43の専攻分野より構成される大学院医歯学総合研究科歯学系を基幹とする大学院大学として新たに発足しました。これに伴い

付属病院も臨床に即した再編成が行われ、3診療系12診療科を中心に、2治療部、2治療室、1診療部、5専門外来、7診療支援部門を備えた総合医療機関としての体制を整えました。このような研究、診療体制はむろん国内においては最大、世界的にも有数の規模となっています。本学は国立の歯学教育機関として歴史ある伝統を継承すると同時に、未来を志向した最先端の医歯学系総合大学として21世紀の歯学研究、医療の中心となるべく期待が寄せられています。



●昭和23年頃の本館（現在の2号館）



●島峰 徹先生

アカデミックドクターの養成

近年の科学技術の発展は、歯学の分野においても学問体系の細分化と研究の学際化をもたらし、人口の高齢化と疾病の変化により、さらに高度な医療技術の提供が求められています。本学医歯学総合研究科歯学系は、これら社会の要請に応えるべく先端的、学際的かつ国際的な研究を目指すと同時に、21世紀における国民と国際社会の要求に応える研究心旺盛な高度専門職業人（アカデミックドクター）と世界をリ・ドする研究者ならびに医学・歯学両分野にわたる境界型医療人の養成を目指しています。

歯学を志す人に求められる資質

歯学を志す人は、まず歯科医学、歯科医療に対して強い関心を持ち、人々の健康や福祉に貢献する強い意志を持っていることが必要です。また、幅広い人間性を有し、観察力、論理的かつ柔軟な思考力を持ち、誠実で忍耐強い努力をもち続けられる人であり、さらに、心身ともに健全で、他人の心情、意見を理解し、患者と同じ視点でものを見ることができ、社会への奉仕に対する積極性と責任感を持っていないければならないことは言うまでもありません。私たちは21世紀に向けて、歯学の発展と歯科医療に貢献できる優秀な人材を求めています。





Dental Hospital

世界に誇る顎顔面口腔領域 専門の総合医療機関



病院長
大山 喬史

23の診療部門を有する附属病院

附属病院は、臨床実習、臨床研修機関として歯学部における教育の一翼を担うと同時に、地域の中核病院として人々の健康の管理に従事する役割をもっています。本院は21世紀の歯科医療のニーズに応えるべく臨床に即した診療科の再編成が行われ、現在、育成系、維持系、回復系の3診療系12診療科を中心として2治療部、2診療部、1診療室を含む中央診療施設、歯科医療情報部、検査部、歯科技工部、薬剤部、看護部、歯科衛生士室を含む中央診療支援部門を擁する本邦最大、世界でも例を見ない顎顔面口腔領域専門の総合医療機関となっています。

先端の医療技術の提供

本院は地域の中核病院として社会の要請に合わせて先端の医療技術を提供しており、あらゆる口腔疾患の治療に対応する診療部門を備えています。それらの中でも、高齢者の抱える口腔疾患を包括的に治療する高齢者歯科外来、顎、顔面、頸部の疼痛を扱うペインクリニック、不定愁訴として従来より診断、治療が非常に困難であった口腔心身症の治療を行う総合口腔心療外来、障害者歯科治療部、インプラント治療部、顎関節治療部、顎義歯外来、スポーツ歯科外来、歯科アレルギー外来など、患者さんの要求と疾患の特異性に合わせた診療科が多数設置されているのも本院の特色です。学生は、6年時にこれらの診療科をまわり様々な疾患について学習し、自ら臨床医として研鑽することになります。



歯学部附属病院



全国一、恵まれた臨床教育環境

教育機関としての附属病院の特色を示しているのは、本院4階にある第一、第二総合診療室です。この広い診療室には100台を越える歯科診療ユニットが並び、教授をはじめとする臨床指導教官、研修医、学部学生が一体となって患者さんの治療に従事する様子は壮観です。歯学教育における臨床実習は、歯科医学の知識、技術の修得はもちろん、患者さんとの対応を通して将来の歯科医師としての倫理観、責任感の創造をはじめとする将来の歯科医師としての人間形成における実践の場ともいえます。このような機会を提供する場として附属病院の担う使命は極めて大きいものがあります。

本院の来院患者数は一日平均で1500名におよび、歯科病院としては世界でもまれに見る患者数を擁しています。学生教育に理解を示してくださる患者さんも多く、臨床実習、臨床研修の場として全国一恵まれた環境にあると言えるでしょう。





●むし歯外来



●義歯外来



●インプラント外来



●中央手術室（顎顔面外科学分野）



●歯科放射線外来



●口腔保健指導コーナー



●小児歯科外来



●口腔外来外科



Education

歯学教育の最高峰

歯学の進歩に対応した新しいカリキュラム

本学の学部教育は、6年一貫教育体制のもとで、新しいカリキュラムによる教育が行われています。入学後2年間は、医学系学生と一緒に主に国府台にある本学教養部にて豊かな人間性の形成に必要な幅広い教養を身につけ、歯科医師としての倫理観と使命感を培う事に主眼をおいた教育が行われます。同時に、基本的な科学原理や概念について理解を深め、歯科医学の進歩に対して自己学習できる基盤を修得します。2年次後半からはお茶の水キャンパスにて解剖学、生理学など歯科医学の専門教育の講義、実習が開始されます。3年次以降は引き続き生化学、病理学、薬理学、細菌学、歯科理工学などの歯科基礎医学の科目について学習していきます。



医療人としての知識と技術の修得

4年次以降は、歯科保存学、歯科補綴学、矯正学、小児歯科学、口腔外科学、麻酔学、隣接医学など、臨床系の科目の講義、実習が行われ、歯科治療に関する知識について学ぶと同時に模型を用いて実際の歯科治療技術について修得していきます。このインフォームドコンセントを基盤とした患者と歯科医師との暖かい人間関係を築くために必要な知識を学ぶ



歯科医療行動学、高齢者特有の口腔領域の諸変化や老人性疾患を合併した患者の歯科治療を扱う高齢者歯科学、先天異常、後天性障害を有する患者の口腔機能の改善、形態の再建をはかる顎顔面補綴学、全身管理を要する精神的、身体的障害を有する患者の歯科治療について教授する障害者歯科学など他に例を見ない特殊診療科目についても勉強し、より広範囲な疾病に対応できる医療人としての知識と技術を身につけていきます。また、基礎研究選択実習が設けられており、学生は一定の期間各講座に配属され、最先端の研究や医療技術に触れる機会を持つことができます。さらに、英語論文の読解力と語学力

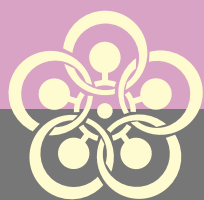


を養うために基礎、臨床の各講座が担当してグループレARNINGを行う科学英語の授業が専門教育の一環として設けられています。

総合臨床実習

臨床教育の後半、5年時6年時には実際に患者さんに対して治療を行う総合臨床実習が行われます。学生各自に割り当てられた診療ユニットで診査、診断にもとづいて患者さんに対する治療計画をたて、指導教官の指示に従って診療を進めていきます。広範囲で深い歯学の知識を限られた時間内で教授する事は極めて困難な事ですが、本学大学院歯学系では常にカリキュラムについて見直しを行い、最も効果的な教育を行うよう努めています。





Graduate School

大学院医歯学総合研究科

新しい知識・技術の開発

歯学の目的はヒトの最も原始的欲求である食べる機能の育成、維持を図り、もって人類の社会生活の基本となる健康の増進に寄与することにあります。21世紀を迎え、人口の高齢化、疾病の多様化など社会の歯科医療に対する要求はますます複雑多様、かつ高度なものとなっており、歯科の分野における新しい知識、技術の開発が渴望されています。歯学の教育研究機関はこのような社会的要請に応えるべく整備される必要があります。このような状況にあたり、本学は医歯学系最高学府としての教育研究水準を維持し、かつ高めていくために医学、歯学およびその連携分野の研究教育にあたる、わが国では唯一の医歯学総合研究科を設置しました。このうち大学院医歯学総合研究科歯学系は口腔機能再建学、口腔機能発育学、摂食機能保存学、摂食機能回復学、顎顔面機能制御学、顎顔面機能修復学、生体硬組織再生学、口腔老化制御学、国際健康開発学、医療政策学および包括診療歯科学の11の大講座のもとに43の専攻分野を擁し、歯科領域の各専門分野における研究を先鋭的に邁進する体制が整えられています。



医歯学総合研究科大講座（歯学系専攻分野）

口腔機能再建学

分子病態学
分子腫瘍学
分子免疫学
分子診断・治療学
口腔機能再建学
口腔放射線医学
麻酔・生体管理学
疼痛制御学
口腔病態診断科学

口腔機能発育学

口腔機能育成学
咬合機能制御学

摂食機能保存学

歯科生体材料学
齲蝕制御学
摂食機能保存学
歯髓生物学

摂食機能回復学

摂食機能構築学
摂食機能制御学
インプラント学
摂食機能評価学

顎顔面機能制御学

顎顔面解剖学
顎顔面生理学
分子発生学
分子細胞機能学
分子神経生物学

顎顔面機能修復学

顎顔面外科学
顎顔面矯正学
顎顔面補綴学
障害者歯科学

生体硬組織再生学

硬組織構造生物学
硬組織薬理学
硬組織再生学
硬組織病態生化学
分子情報伝達学
歯周病学

国際健康開発学

健康推進歯学
スポーツ医歯学
法歯学

医療政策学

医療経済学
医歯総合教育開発学

口腔老化制御学

口腔老化制御学

包括診療歯科学

総合診療歯科学
口腔心身医学
歯科医療行動科学



多様な基礎歯学研究と高度な全人的包括治療

これらの専攻分野の中には、最新の遺伝子工学の手法を用いて顎口腔の発生機構を分子レベルで解析する分子発生学分野、生体を構成する複数の細胞の関連機構を明らかにし、組織の情報伝達システム解析のための多面的、学際的教育研究を行う分子情報伝達学分野、分子生物学的手法を導入した臨床診断や遺伝子導入、免疫因子の投与を応用した治療法について研究する分子診断・治療学分野など従来の歯学研究には見られない部門も数多く設置され、多様な基礎歯学研究の場を提供しています。また、心身医学的治療を必要とする患者のうち、特に頭頸部、口腔領域に愁訴を持つ口腔心身症の診断と治療を行う口腔心身医学分野、歯科医師と患者との円滑な人間関係の確立に必要な知識、技術について研究する歯科医療行動科学分野など高度な全人的包括治療が実践できるアカデミックドクター養成のための臨床系分野の充実も計っています。さらにこれら大学院担当教官が歯学部学生の教育研究の指導にあたることにより学部教育が一層充実し、かつ最先端の知識と技術を習得した歯科医師の養成が期待されます。





Research

世界をリードする研究実績

21世紀の歯学の発展を目指して

本学は創設されて以来、歯学に関する学術の理論および応用について研究するとともに、歯学の発展に貢献する指導的人材を多数育成してきました。その研究成果は国際的にも高く評価されており、現在に至るまでに日本学士院賞2名、紫綬褒章5名をはじめとして国内外の権威ある各賞の受賞者を輩出してきました。また、本学は全国の歯学部・歯科大学に242名以上と圧倒的多数の教授を送り出し、本邦における歯学教育研究の中心的、指導的役割を果たしてきました。平成11年に我が国の歯学部・歯科大学において初めて設置された大学院医歯学総合研究科は、医学部・歯学部を有機的に連携して大学院を高度化することにより21世紀の医学、歯学の発展における教育研究の拠点となることを目指しており、世界をリードする研究者、アカデミックドクターの養成を行います。



活発な研究開発

現在、本学において進められている研究や技術開発についてご紹介しましょう。まず臨床系の講座は主に新しい歯科材料の開発とその臨床応用について研究を行っています。接着性レジンの開発は、虫歯の治療法を一変させてしまったほどの世界的な研究であり、現在もその改良や治療法への応用が勇躍進められています。また、世界に先駆けて本学において開発された電氣的に歯根の長さを測定する方法は、今では世界中の歯科医師が利用しています。さらにレザを用いた虫歯の予防と治療技術の開発の日本で初めての取り組みや、新しい材料である超弾性合金や超塑性合金を用いた治療法の開発とそれを用いた義歯の作製なども行っています。その他、腫瘍の摘出などによる顔面組織の欠損に対して審美性の回復を目的として行う顎顔面補綴治療法の開発、先天性疾患などによる顎顔面の形態異常に対して審美性と咬み合わせの再建をはかる顎顔面矯正治療法の研究も活発に行われています。



人々の健康に貢献する 熱い情熱

一方、基礎系の講座では、未来の歯学発展の土台となる研究が進められており、多数の国際的業績が挙げられています。また、基礎、臨床の講座が相互に密接に連携を保ちながら、研究を進めていくことも本学の特徴で、全学的に活発に進められている『硬組織の再生医工学』や『シンボル操作の脳内機構』などのプロジェクトは学際的、集学的な研究として内外の注目を浴びているところです。歯学研究は歯科医学の発展に寄与するとともに、究極的には人々の健康に貢献することを目的としています。その意味で歯学研究者を志す人は歯学に対する研究心とともに人の健康に貢献しようとする熱い情熱をもつ人でなければなりません。





Campus Life

学生生活・国際交流・卒業後の進路

恵まれた勉学環境

東京医科歯科大学教養部は、江戸川を挟んで東京都と接する千葉縣市川市国府台にあり、緑にめぐまれた広いキャンパスは図書館、研修設備、各種スポーツ設備が整っています。学生数も少ないこともあって落ち着いて勉学に励むことのできる環境を提供しています。これに対して専門科目を学ぶ本部キャンパスは、建学以来の地であるお茶の水にあります。都心にある大学の常として敷地は手狭ですが、歯学部は地上12階の附属病院を中心とする5つの建物より構成されており、学生は講義棟と病院の間を往復して講義と実習に明け暮れる毎日を送っています。

本学部の教官数は181名を数え、学生2.6人に1人の教官が配置されており、少人数の効果的な教育が行われています。また、教官と学生間の交流が活発で、授業のみでは得ることのできない人間関係を築くことができます。



190名を超える外国人留学生

国府台、お茶の水ともキャンパスに入ると外国人留学生が非常に多いことに気づかれるでしょう。本学は外国人留学生の受け入れについて非常に積極的で現在、医学部、歯学部、大学院を合わせて190名を超える外国人留学生が学んでいます。国別では中国が最も多く、次いでタイ、マレーシア、ミャンマー、ブラジル、台湾、韓国、またシリア、ベトナム、ラオスなどからの留学生も学んでいます。また、国際交流も盛んで、中国の北京医科大学、タイのチュラロンコン大学歯学部、スリランカのペラデニア大学歯学部、アメリカ合衆国のハーバード大学歯学部、大韓民国のソウル大学校歯科大学、オーストラリアのメルボルン大学歯学部、デンマークのコペンハーゲン大学健康科学部歯学科をはじめとして世界20の大学と学術交流協定が結ばれ、留学生の交換、共同研究などが活発に行われています。



卒業後の進路

本学を卒業し歯科医師国家試験に合格した後の進路は人によって様々ですが、主に大学で研究、研修を続けていく場合と、一般の病院、開業医に勤務する場合、また自分で開業する場合があります。本学の特徴として、卒業生の多くが歯学の研究に関心を持ち希望する研究テーマ



にあった大学院医歯学総合研究科に進み、研究、臨床に従事して高度な専門的知識を身につけることがあげられます。また、卒業後すぐに臨床医として高度な医療技術を身につけたい場合は、臨床研修医として臨床講座に籍を置き、一層の研鑽を積んでいくことになります。さらに本学卒業生に特に期待される進路として、厚生、保健行政に従事する道も開けています。本学卒業生は他の歯科大学に比べて、国公立大学歯学部、研究所、国公立医療機関に勤務し指導的立場を担っている場合が多く、海外の大学、研究所で研究、教育に従事している卒業生も少なくありません。